

ささいな恐怖

……が写っていない



GIMA

「きゃああああー————っ！」

「なに。急に変な声あげないでよ。どうしたの」

「この写真の、このおじさん、て、手首から先がないっ！」

「ん？ どれ。……ああ、この人。工場の機械にはさまれて、切断されたんだって。あんた、無神経にわーわー騒ぐところがあるから、気を付けなさいよ。本人が聞いたら、気を悪くするよ」

「きゃああああー————っ！」

「今度は、なにっ？」

「こ、この写真のおじいさん、腕が写ってないっ！ 半袖のシャツから、何も出てないっ！ し、心霊写真？」

「どれよ、もう。……ああ、このおじいさんね、戦争中、東南アジアのどこかに行ったの。そこで爆撃を受けて、片腕が吹っ飛ばされたんだって。いちいちわーわー言わないの」

「きゃああああー————っ！」

「ちょっともう。いいかげんにしてよ。なんなの」

「こ、この女の人、……だと思うけど、くびっ、首が写ってないいいい！」

「え？ ……ああ、その人ねえ。私の知り合いなんだけど、ちょっと前、車で事故って首がちぎれちゃって。本人が気づいてないもんで、私たちも、なんか言いにくくってさ。ま、しばらくはそっとしとこうかなって。

ね？ 心霊写真とかナントカって言うけど、事実なんて、こういうものよ」

……そうかなあ。